

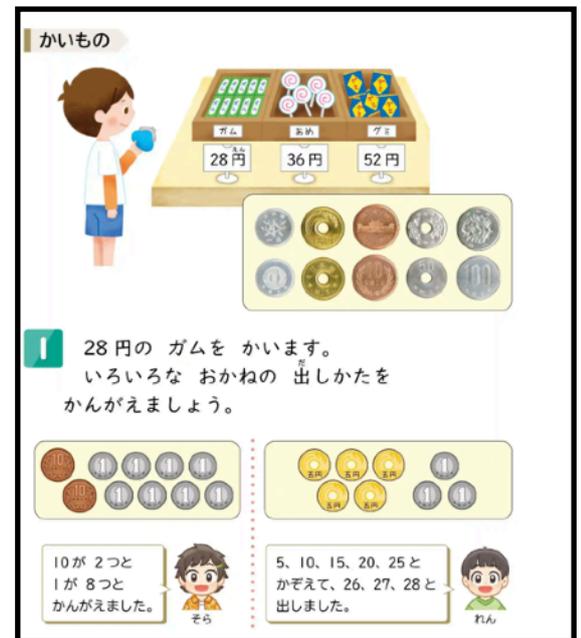
# Solan Big Thinkers

## 日常生活の土台となる低学年算数

先日、算数の授業で右のページを扱いました。

28円のお金の出し方を考えましょう。

実際にお金を扱うことは難しいので、教科書にはQRコードが付いています。iPad上で操作することができるようになっています。



あまりに日常的なので、「できて当たり前」と大人は思ってしまっていますが、そんなことはありません。それは「大人の感覚」なのです。

授業の最初、子どもたちはミスを連発します。ミスをミスと感じさせないように、楽しい雰囲気の中かで授業を進めました。

教師が指示した代金より多く支払おうとした子には、

こんなにたくさん！ありがとうございます。

とコメントをします。すると、クラスは大騒ぎ。

先生がもらいすぎになる！詐欺だ！  
先生が喜んでるっ！こうすれば・・・

と言いたいことを言いながら、修正し合っています。



そんなやりとりを繰り返すうちに、ミスが減ってきます。ミスが減ってくると、複雑なお金の出し方を考えるようになってきます。小銭を大量に出す方法です。それもまた、楽しいひとときでした。



ちなみに、この学習は「大きいかず」という単元（学習内容のひとつかたまり）の一部です。

「10が10個で100」「100と10と3で113」とわかること。

「10、20、30・・・」と10とびで数が数えられること。

「5、10、15・・・」と5とびで数が数えられること。

今までの学習が生かされる場面です。だから、最終的に次のように指示を出して、学習を進めました。

一番シンプルに。一番コインの数が少なくなるように出すならば、  
どう出しますか。

さて、お金を支払いすぎないように（支払い過ぎても店員さんが気づいてくれますが・・・）、ご家庭で実物を使いながら練習してみるのもよいかもしれません。「もうバッチリ！」の状態でしたら、一安心です。

低学年の算数は日常生活と親和性が高いです。「できる」状態にしていくために、工夫を重ねます。